

熱海中学校働き方改革推進事業

熱海市立熱海中学校 校長 坂本 貴一

熱海中学校の課題

- ◎ **不登校傾向の生徒の増加**
令和2年度まで上昇傾向
- ◎ **基礎学力の定着が不足**
学習に対する苦手意識が高い

生徒とより丁寧にかかわり、学校をより安心安全な場として変革していく必要性がある。
そのために、働き方改革を通して、子どもと丁寧にかかわることができる時間を確保し、教職員が心にゆとりをもちながら、職務を遂行できる職場環境の醸成が必要であると考えた。

熱海中学校のこれまでの取組

○平成29年度～

市より校務支援ソフトの導入、校務の電算化

○平成31年度～

市より部活動ガイドラインの実施

○令和元年度～

熱海市立小中学校の教育職員の勤務時間の上限に関する方針

○令和3年度～

県指定の働き方改革推進校

働き方改革の意義を保護者・地域と共有するため、PTA常任委員会や警察ボランティアなどの場で説明。

教育の質の向上を図るには、教職員の心身の健康の保持増進とワークライフバランスの見直しは不可欠である。

熱海中学校教職員の意識

令和3年5月実施のアンケートより

- I 『学校の教員としての自身の仕事にやりがいを感じている。』 100%
- II 『児童生徒と向き合える「授業」の時間は楽しいと感じている。』 94%
- III 『昨年度を振り返って、仕事が忙しいと感じている。』 94%
- IV 『家に持ち帰って仕事をすることがある。』 77%
- V 『「児童生徒と向き合う時間」や「指導準備の時間」は前年度に比べて増えていると感じている。』 61%

多くの教職員がやりがいや授業の楽しさを感じているが、その時間が不足しているとも感じている。

熱海中学校教職員と生徒の現況から

○働き方改革目標

教育課程や日課、行事などを見直し、
一日の勤務時間の中で、**生徒と向き合
う時間や授業準備の時間を確保し、教
育の質の向上を図る。**

目標を達成するために

- I 学校の開錠時刻の変更、学校行事や日課表などの見直し、生徒の活動がより効率的・効果的になるよう工夫する。
- II 担任業務に関しては、直接、生徒と向き合う時間を確保するために、事務的な作業(ワークシート作成、日誌の点検など)をできるだけ削減する。
- III 分掌業務に関しては、軽重の分散や、業務自体を見直すことで、放課後の時間を生み出し、教材研究等の時間につなげる。

目標達成のための事例 I

| | |
|------|---|
| 手立て | 下校指導の見直し |
| 内容 | 慣例的に行ってきた業務を廃止。生徒が下校後、 30~50分程度費やしていた下校指導の時間を削減する。 |
| 削減時間 | 1日当たり40分 40分×207日 8,280分 年138時間の削減 |
| 効果 | 生徒自身が下校の様子を振り返ったり、生徒指導主事が毎日昼の放送で、下校時を含めた生活について話をしたりすることを通して、熱海中学校の生徒としての自覚が高まった。教職員は、時間外に行っていた業務が減り、時間外勤務の削減につながった。 |

目標達成のための事例Ⅱ

| | |
|------|--|
| 手立て | 日課・開錠時刻の見直し |
| 内容 | 日課表や開錠時刻の見直しを行い、生徒が学習に集中できるよう工夫し、放課後の時間を生み出す。 |
| 削減時間 | 1日当たり20分 20分×207日 4,140分 年69時間の削減 |
| 効果 | 時間外に行っていた業務を時間内で終わらせるよう意識するようになった。 生徒の表れなどを、職員間で共有する時間を確保できるようになった。 |

新日課表

| | 月曜日 |
|------|-----------------------|
| 開 錠 | 7 : 4 0 |
| 朝の会 | 8 : 0 0 ~ 8 : 1 0 |
| 1 | 8 : 2 0 ~ 9 : 1 0 |
| 2 | 9 : 2 0 ~ 1 0 : 1 0 |
| 3 | 1 0 : 2 0 ~ 1 1 : 1 0 |
| 4 | 1 1 : 2 0 ~ 1 2 : 1 0 |
| 給食 | 1 2 : 1 5 ~ 1 2 : 4 5 |
| 昼休み | 1 2 : 4 5 ~ 1 3 : 1 5 |
| 5 | 1 3 : 1 5 ~ 1 4 : 0 5 |
| 6 | 1 4 : 1 5 ~ 1 5 : 0 5 |
| 清 掃 | |
| 帰りの会 | 1 5 : 1 0 ~ 1 5 : 2 0 |

- ・ 開錠時刻を従来より10分遅らせたことにより、職員の時間外勤務の削減を図った。
- ・ 朝に行っていた活動を精選し、授業を速やかに開始できるようにした。
- ・ 生徒の集中力がある時間帯に授業を実施。
- ・ 清掃の時間は週に3回とし、放課後の活動の時間を確保。
- ・ 新日課により、諸活動や学力補充などを計画しやすくなった。また、生徒の下校後に行っていた事務作業などを勤務時間内に始められるようになった。

目標達成のための事例Ⅲ

| | |
|------|--|
| 手立て | 個人ノート・課題チェックの見直し |
| 内容 | 個人ノートや課題の提出方法などを見直す。 |
| 削減時間 | 1日当たり30分 30分×207日 6,210分 年103.5時間の削減 |
| 効果 | デジタル機器の活用により、課題チェックに付随する事務処理も簡素化できた。 生徒と向き合う時間が確保され、時間外に行っていた業務が前倒しできた。 |

熱海中学校 勤務時間の変化

令和2年度と令和3年度比較

個人平均

月あたり **36.7分の削減。**

最大月 **79.0分(1時間19分)の削減。**

年間合計 **367.0分(6時間7分)の削減。**

熱海中学校の職員の変化

令和3年度振り返りアンケートより

I 『昨年度を振り返って、仕事を早く終わらせるよう意識している。』
に対して、**92%**の教職員が意識するようになったと回答した。意識改革が進み、タイムマネジメントの向上が図られた。

II 『「児童生徒と向き合う時間」や「授業準備の時間」は以前に比べて増えていると感じている。』に対して、**70%**の教職員が増加したと回答した。5月のアンケートでは**61%**の回答であった。今回、数値の上昇がみられ、着実に改革の成果が実感できるようになってきていると考えられる。

III 『家に持ち帰って仕事をすることがある。』に対しては、**66%**の教職員が
することがあると回答した。5月のアンケートでは**77%**であった。持ち帰りの仕事を
しなくても、業務を終えられるようになってきた教職員が増加した。

IV 『現在、十分な睡眠時間や趣味でリフレッシュする時間等が確保されている。』というアンケートには**84%**の教員が確保されていると答えており、このような心身の安定が、不祥事の根絶へつながるものと考えられる。

まとめ

- I 職員の心身の健康は生徒への指導に直結するため、働き方改革を意識し、職員が行動することにより、教育の質の向上と学校の活性化が図れる。
- II 生徒と向き合う時間や、授業準備の時間が確保されることにより、教職員に心のゆとりが生じ、不登校生徒の減少や学力向上につながる。
- III 今後についても、働き方改革を推進し、業務改善を図り、多忙化解消に努めていく。